

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、コンビニエンスストアやドラッグストアが順調となっているほか、観光も回復しつつあるなど、全体としては持ち直している。生産活動は、電気機械が弱含んでいるものの、食料品が持ち直しつつあるほか、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直しているなど、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡
生産活動	弱含んでいる	一進一退の状況にある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	➡
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は減益見込み	➡
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「上昇」超	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	➡
公共事業	前年度を下回っている	前年度を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパーは、身の回り品等に動きがみられるほか、飲食料品が堅調であることから、全体としても堅調となっている。コンビニエンスストアは、飲料品や米飯類等が順調であることから、全体としても順調となっている。ドラッグストアは、飲食料品が順調であるほか、化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、販売価格の上昇などを背景に、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、防災用品や防犯用品等に動きがみられるほか、日用品が底堅いことから、全体としても底堅いものとなっている。百貨店は、高額品に弱さがみられるものの、衣料品や身の回り品に動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。観光は、外出機運の高まりにより、回復しつつある。国内旅行は、緩やかに回復しつつあり、海外旅行は、持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、お出かけ需要や旅行需要が更に伸びており、キャリアバッグや化粧品、スキンケア商品の売れ行きが好調。(スーパー)
- 節約志向が高まるなか、比較的割安感のあるミンチ肉や低価格帯のアルコール飲料の売上が伸びている。(スーパー)
- 行楽需要や人が集まる機会の増加を背景に、バーベキュー用の肉やオードブル・寿司などの総菜が好調となっている。(スーパー)
- 行楽需要や観光客の増加などを背景に来店客数が増え、おにぎりやペットボトル飲料などの売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 県内で宿泊する観光客が増えており、宿泊施設周辺の店舗を中心にアルコール飲料やスナック菓子の売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 取扱いを強化している冷凍食品や生鮮食品の売れ行きがよい。(ドラッグストア)
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品の売上が回復傾向にある。(ドラッグストア)
- 自動洗剤投入機能付きの洗濯機や、自動掃除機能付エアコン等に人気が出ているものの、販売価格の上昇などを背景に、幅広い品目で買い控え傾向がみられる。(家電大型専門店)
- ティッシュペーパー等の日用品は、スーパーやドラッグストアとの競合が激しいものの、生活必需品であることから、一定程度の売上を維持できている。(ホームセンター)
- 全国で地震が相次いだことなどを背景に、家具の転倒防止グッズ等の防災用品の売上が伸びたほか、全国的な強盗事件の発生を受けて補助錠等の防犯用品の売上も伸びている。(ホームセンター)
- 高級時計が品薄で売上に繋がっていないものの、外出機運の高まりから、衣料品やハンドバッグ等に動きがみられる。(百貨店)
- 半導体不足の改善により登録台数は順調に増加している。(乗用車)
- 新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、国内観光客、外国人観光客ともに増加している。団体客も回復傾向で、ツアーバスの台数は昨年の倍以上になっている。(観光)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って、イベントが通常通り行われるようになったこともあり、国内旅行の需要は順調である。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

食料品は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。汎用・生産用機械は、設備投資関連の堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては一進一退の状況にある。

- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、外食向け需要は更に増加している。(食料品)
- 自動車関連需要は、設備更新時期に加え、自動車生産の回復もあって、受注は増えている。(汎用・生産用機械)
- 中国向けのスマートフォン電子部品について、引き続き在庫調整が行われていることから、生産量が減少している。(電気機械)

■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移しているほか、新規求人数は底堅く推移しており、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 新規求人数が減少しているのは、求人提出時期のずれや、前年の大型求人の反動などによるものが多く、様々な業種で人手不足の傾向は続いている。(労働局)
- 物価高の影響もあり、より良い賃金を求め転職する動きがみられる。(労働局)
- 観光需要が回復している影響などによって、宿泊業や飲食業で求人数が増加している。(労働局)
- 人材確保に苦戦しているため、外国人労働者を採用するなど採用枠を広げたり、賃上げを行ったりしている。(小売業)

■ **設備投資** 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

- 製造業及び非製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれにおいても前年を下回っている。

- 資材価格上昇による住宅価格の値上がりなどによって、住宅購入のマインドが低下している。

■ **公共事業** 「前年度を上回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、国は前年度を下回り、県は前年度並みであるものの、独立行政法人等及び市町村は前年度を上回っていることから、全体としても前年度を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年4月判断)	今回 (5年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	緩やかに持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。